

# 文化ファッション大学院大学ファッションクリエイション専攻 2023 年度生入試問題

## <ファッションデザインコース・ファッションテクノロジーコース共通>

### ■研究計画書(試験時間 90 分)

(研究計画書は、ファッションデザインコースでは 2024 年度入試からの実施となります。)

A4 の原稿用紙と A4 の画用紙をこちらから配布。

設問に基づき、A4 の原稿用紙に研究概要、A4 の画用紙にファッションデザイン画、または製品図を作成。

(製品図はファッションテクノロジーコース受験者のみ可。)

全期共通 研究計画書 設問
<p>【問 1】 ファッションクリエイション専攻では院生が個々に研究計画を考え、それに基づいた研究活動と作品制作を行います。入学後 2 年間であなたが研究しようと考えている研究テーマと内容の概要を 400 字以内にまとめて書きなさい。</p>
<p>【問 2】 問 1 で設定した研究テーマに基づいた作品 2 体を、デザイン画※1もしくは製品図※2のいずれかで描きなさい。また、各コーディネートアイテムごとに使用素材(素材名、加工方法等)、デザインポイント(ディテール、シルエット、パターンの特徴等)の説明を明記しなさい。画用紙は横使いとする。</p>
<p>※1 デザイン画を作成する場合には鉛筆を使用すること。 ※2 製品図はファッションテクノロジーコース受験者のみ可。 製品図を作成する場合には定規と鉛筆を使用すること。</p>

## ■小論文(試験時間 60分)

出題テーマに基づき、こちらで用意した原稿用紙に小論文を作成。

### I期 小論文 出題テーマ

【問】以下の文章を読んで、あなたが考える「造形ドレスを服として成立させる」要件を1200字以内で説明しなさい。

デザイナーのボディーへの意識を再確認できたのは、22年春夏オートクチュールを通じてのことだ。造形的な服を作る「イリス・ヴァン・ヘルペン」のコレクションで、体への意識を持ったクリエイションを感じることができた。

#### “衣装”の側面強く

ショー会場に置かれたのは、人が何かに変身しているかのようなシルバーのオブジェ。その空間に登場するのはヘルペンらしい造形ドレスだ。羽衣がそのまま固まったかのような造形ドレスや、体に巻き付くレザーテープで骨組みのように立体を作るドレス。エレガントな造形ドレスのどこかに生々しい毒気のようなものを感じることができる。

「メタモルフィズム」(変成)と題されたコレクションは、装飾的な造形美を描きながらも、同時にボディーへの意識を感じさせるものだった。繊細な装飾の造形ドレスでありながら、同時にフェティッシュで生々しさも感じられるものだ。

同じような造形のクリエイションでありながら、日本の若手のデザインが、どこかアート作品や衣装のように感じられるのはなぜなのか。それをずっと考えてきた。

例えば、今年のLVMHヤングファッションデザイナープライズのファイナリストに選ばれた「リュウノスケオカザキ」のコレクションがその一つだ。22年秋冬は、ひらひらとした羽のような布のパーツを組み合わせたドレススタイルで、骨組みと布で羽のようなパーツを作り、それをつないでふわふわとしたドレスを作った。

ひらひらとしたアブストラクトなドレススタイルは、ヘルペンのコレクションにも通じるものがあるのだが、その造形ドレスは、抽象的な概念を形にした衣装としての側面が強い。

「ユイマ・ナカザト」の22年秋冬オートクチュールからも同じようなことを感じた。秋冬は海のモチーフを背景にしたコレクションだったが、ウールコートやビーバータッチのコートなど、前シーズンよりプロダクトとしての完成度を感じるアイテムもあったのだが、コレクション全体から感じるのは、やはり“作品”のようなイメージだ。

#### 足りない迫力の理由

かつて、「コムデギャルソン」が、新しい美しさを探して、服の概念の外側にあるものを意識したシーズンがある。確かに、その形はアブストラクトで、袖すらないものもあった。ただ、そこで感じたのは衣装というものではなく、ひたすら強い存在感を主張するものだった。そして、服じゃないものと服との境界とは何なのかを考えさせ、服そのものの概念や美しさへ揺さぶりをかけた。

日本の若手デザイナーがコンセプトチュアルな造形服を作ろうとしたときに、抽象の概念としての造形美や圧倒的な迫力までをなかなか描き切れないように思う。

その要因の一つが、服があくまでも人がまとうもの(体が中に入るもの)であるという考え方から離れていっていることにあると感じている。人の体がまとうことで起こる生々しさや強さによって、造形ドレスが違う迫力を生む。そのボディーへの意識が希薄であるから、服というよりも衣装、作品のように見えてしまう。

ファッションデザインは、ファッションの持つファンタジーやデザイナーのエモーションという価値と、製品としての価値の両面で成り立っている。そのバランスを高い次元で成り立たせるには、ボディーへの意識が決定的に重要なのではないか。ヘルペンのオートクチュールとこの間の日本のデザイナーの造形ドレスを見て、改めてそう考えた。

Ⅱ期 小論文 出題テーマ

【問】 今後、ますます拡大が期待されるメタバース（インターネット上の仮想空間）市場。以下の文章を読んで、ファッションビジネスにおける「リアルとバーチャル」についてあなたの考えを1200字以内で述べなさい。

著作権上の問題で設問のみ公開いたします。